

どんぐり山行通信 至仏山

第73号

2012年8月18日(土)
曇りのち雨
参加者 19名

しぶつさん(2228m)



戸倉でバスを乗り換える。濃い緑の樹間を分け入って鳩待峠をめざす。今は真夏だけれど草紅葉の秋から冬に入るとやがて道端の赤白のポールも雪に埋められるのだろう。夏雲の合間に青空も見えるからなんとか天気はもちそうかな。ゴロゴロ



石と木道を登り始める。大き目の笹が頬をなでる。勾配はゆるやかで先頭集団は快適なピッチで飛ばす。後方集団は花にカメラをむけて遅れがちになる。やがて左方に笠が岳、前方に小至仏山のピークが現れる。そして右手北面には燧ガ岳がそびえている。その後方は会津駒ヶ岳だろうか。小ぶりの花がところどころに顔を出す。お爺さん達がカメラを向けてもいやな顔をせずにポーズをとってくれる。年寄りを大事にしてくれる花たちだ。いつものとおり花博士に名前を聞いても、右から左へと通り過ぎていく。黄色の目鼻立ちのはっきりしたエゾウサギギク、紫でうつむきかげんはヒメシャジン、白の点々はイワシモツケ、紫の髪の毛みたいなのはタカネナデシコかな? オヤマ沢田代の分岐を過ぎて間もなく小至仏山に出る。眺めのよい岩に陣取って弁当を開く。正面に至仏山、左手にならまた湖がみえる。雷鳴が轟きだしたので目の前の至仏山はあきらめ引き返すことにする。山標の小至仏山の小の字をタオルでかくして集合写真をとる。これで至仏山に登ったことにする。知恵者がいるものだ。降り始めてすぐゴロゴロと雷が鳴り始める。一目散にただひたすら前を見て髪を振り乱して降りる。髪の毛はほとんど抜けてしまったけれど気分だけは・・・。雷がほかのメンバーに落ちて八つ裂きになっても俺にだけは落ちないように必死に祈る。もし全員無事に帰れたらしらすらしく「皆無事で良かった」と言ってやろう。分岐を過ぎる頃から土砂降りになってくる。先頭とはどんどんはなれていく。冷たいやつらだ。先月の蓼科山もそうだった。すべ



る木道と蛇紋岩に気をつけながらようやく峠にたどりついてほっと一息つく。

仙丈ガ岳 8月18, 19日有志13名で。2日目は晴天で北岳、甲斐駒もバッチリ文句なし。来年も小屋泊まりで行こう。(伴記)

